

経済学部学生の日本語力に関する調査報告

岡村東洋光

1. はじめに

学力低下問題は、すでに1990年代から大学関係者の間で話題になっていたが、1999年に『分数ができない大学生』¹をマスコミが取り上げ、一躍社会問題となった。2002年度の筑波大生に関する国語力調査によると、新聞記事から抽出した漢語200の読み書きテストの結果、正答率が20%以下の語が、読みで5、書きで20あったという。²また、2004年11月には独立行政法人「メディア教育開発センター」の小野博教授らの調査で、中学生レベルの国語力しかない学生が国立大で6%、四年制私立大で20%、短大では35%にのぼることが指摘された。³さらに、本年9月、東京大学の調査で、2005年度に高校3年生だった生徒を対象として、大学進学者の5人に1人は家でほとんど勉強せず、2人に1人は勉強時間が2時間以下、と発表された。⁴

こうした事態を真摯に受けとめるなら、当然、本学でも学生の日本語力を調査すべきだし、その結果を踏まえて、適切なカリキュラムと教育を実行すべきなのだが、現実には必ずしもそうはなっていない。そこで一教員として、事態をいつまでも放置できないという気持ちから、意を決し「日本語力」調査に取り組んでみた。もちろん、筆者は国語の専門家ではないが、素人だからこそ恐れることなくできることがある。

ここに紹介する「経済学部学生の日本語力に関する調査」は、筆者が担当

する前期科目の「社会思想史A」、および後期科目の「社会思想史B」において、任意に行ったものである。

以下、調査内容と結果を紹介し、若干のコメントをしてみよう。

2. 第1回目の調査

〔1〕調査の概要

第1回目の調査は「社会思想史A」の2007年5月1日、昼間部の講義で実施した。設問IとIIは中学2年生レベルの漢字力を想定したものであり、設問IIIは新聞を読んでいる高校生を想定したカタカナ言葉の常識問題である。

前書きで「この調査は、講義内容の改善を目的としています。各自の成績とは無関係ですが、まじめに答えを書いてください。」と記入し、隣の人の解答を見ないように注意を促しつつ、約15分かけて調査を行った。受講者数313名のうち、当日の出席者は約200名であったが、調査に応じた者は2007年度入学生（以下、07と表記）の135名、2006年度入学生（以下、06と表記）の36名、合計171名であった。調査日が5月の連休中であったので、休んだ学生も多く、出席したのは相対的にまじめな学生であったと推測される。

設問は全部で30問、正解とその数（率）は以下の通りである。

第I問 { } 内の漢字に読み仮名をつけなさい。

{解答数06=36, 07=135, 計171}

正解数 06 07 計 (正解率%)

①彼は {視野：しゃ} の広い人間だ。 36 134 170 (99.4)

②親の遺言にしたがって {遺産：いさん} を継承した。

36 135 171 (100)

③彼女は町の {出納長：すいとうちょう} として忙しい。

19 105 124 (72.5)

④あの人は {体裁：ていさい} ばかり気にしている。 30 104 134 (78.4)

⑤イノシシが {雑木林：ぞうきばやし} を駆け抜けた。

29 120 149 (87.1)

⑥新聞社で {校閲：こうえつ} の仕事をしている。	28	114	142	(83.0)
⑦{既成：きせい} の概念にとらわれない発想。	29	100	129	(75.4)
⑧震災からの {復興：ふっこう} を援ける。	34	126	160	(93.6)
⑨物価が {騰貴：とうき} した。	24	88	112	(65.5)
⑩石狩平野は {穀倉：こくそう} 地帯だ。	31	107	138	(80.7)
正解数(率)：06=296 (82.2%)，07=1133 (83.9%)，計1,429/1,710 (83.6%)				

第II問 { } 内を漢字で書きなさい。

	正解数	06	07	計	(正解率%)
①作業のムダを {はぶ：省} く。	30	119	149	(87.1)	
②その判断に {いぞん：異存} はない。	16	54	70	(40.9)	
③{ねんがん：念願} の大学に合格する。	35	124	159	(93.0)	
④幹事役を {つと：務} める。	25	88	113	(66.1)	
⑤4月の人事 {いどう：異動*} で福岡勤務になった。	22	72	94	(55.0)	
⑥太郎君のお父さんは生命 {ほけん：保険} に入っている。	36	114	150	(87.7)	
⑦あの宣伝が {き：効} き，売り上げが伸びた。	30	104	134	(78.4)	
⑧税金を {おさ：納} める。	32	125	157	(91.8)	
⑨野菜を {さいばい：栽培} する。	22	85	107	(62.6)	
⑩毎日，{きりつ：規律} ある生活をする。	30	112	142	(83.0)	
正解数(率)：06=278 (77.2%)，07=997 (73.9%)，計1,275/1,710 (74.6%)					

*場所の移動とも考えられるので，「移動」も正解とした。

第III問 次の事項の説明で正しい番号を記入しなさい。

a) インフレーション：

①バス代が高くなる。②妹の背が伸びる。③物価が上がる。 { }

b) イノベーション：①子供の遊び。②技術革新。③猪料理。 { }

c) エヴォリューション：①携帯電話。②進化。③進歩。④広告。 { }

d) コンベンション：①休憩所。②便利な場所。③集会。 { }

e) コンプライアンス：①法令遵守。②複雑なもの。③お年寄り。 { }

- f) Jターン：①日本へ戻る。②出身地の近くに戻る。③Jリーグに戻る。 { }
- g) ニッチ：①お金持ち。②小金持ち。③日当。④壁の窪み。 { }
- h) アウトソーシング：①外の清掃。②外部委託。③宅配。④水源 { }
- i) モバイル：①可動性の。②自動車の。③モーターバイクの。 { }
- j) アパレル：①アパート。②既製服。③借家。④高級服。 { }

第III問の解答，正解数・率は以下の通り；

	{正解}	06	07	計	(正解率%)
a) インフレーション：	{③}	33	135	168	(98.2)
b) イノベーション：	{②}	33	134	167	(97.7)
c) エヴォリューション：	{②}	31	99	130	(76.0)
d) コンベンション：	{③}	21	74	95	(55.5)
e) コンプライアンス：	{①}	23	95	118	(69.0)
f) Jターン：	{②}	4	35	39	(22.8)
g) ニッチ：	{④}	2	17	19	(11.1)
h) アウトソーシング：	{②}	30	122	152	(88.8)
i) モバイル：	{①}	32	126	158	(92.4)
j) アパレル：	{②}	21	82	103	(60.2)

正解数(率)：06=230 (63.9%)，07=919 (68.1%)，計1,149/1,710 (67.2%)

総正解数(率)は以下の通り；

	06	07	計	(正解率%)
I 漢字の読み仮名問題：	296 (82.2)	1133 (83.9)	1,429/1,710	(83.6)
II 漢字で書取り問題：	278 (77.2)	997 (73.9)	1,275/1,710	(74.6)

第I問・第II問の小計：

	574 (79.7)	2130 (78.9)	2,704/3,420	(79.1)
III 用語当て問題：	230 (63.9)	919 (68.1)	1,149/1,710	(67.2)
計	804 (74.4)	3049 (75.3)	3,853/5,130	(75.1)

総解答数：6=36人×30，07=135人×30，総計171人×30(率)

また、個人別正解数の分布は以下の通りである。(総点30点満点)

得点(正解率%)	06(36名)	07(135名)	合計(171名)	全体に占める比率
20点未満	8	23	31	20未満—18.1%
20(66.6)	1	10	11	20以下—24.6%
21(70.0)	1	13	14	21以上—75.4%
22	1	17	18	
23	5	15	20	
24(80.0)	8	17	25	24以上—45.0%
25	6	17	23	
26	1	12	13	
27	3	6	9	
28(93.3)	2	5	7	

注：29点以上の者はいない。07年度入学者のサンプル数135は、在籍者数約500なので、十分有意な数値である。06年度入学者のサンプル数36は、在籍者数約400なので、1割に満たないが、参考資料としては十分意味があるとみなしてよい。

〔2〕調査結果の分析

全体として、漢字の読み仮名問題は07が相対的にできており、書取り問題は06が相対的にできている。しかし、カタカナ用語問題はふたたび07が優位に立っている。こうした数字から判断して、07と06の間に、学力上、特段の相違はないものと考えられる。したがって、以下、全体としての数値を問題にする。

中学2年生の漢字力を想定した第I問・第II問の小計を見ると、06の79.7%、07の78.9%、合計では79.1%の正解率であった。つまり、正解率は約80%である。約8割の学生が中2レベルをクリアしている。だが、このことは、反対に約20%強、5人に1人の学生が中2レベルの漢字力に達していないことを意味する。彼らは、このままでは単位取得がままならず、おそらく多くは中退していくと予測される。しかも、この調査は、相対的にまじめな学生が答えていると考えられるから、中学2年次の漢字力に未達の学生は、実際にはこれ以上の相当数いると推定される。もし、この推定が正しければ、

わが経済学部では、「中学生レベルの国語力」に疑問符の付く学生が5人に1人（以上）いることになる。

個別の読み仮名問題では、物価が「騰貴」するが読めない学生が最も多かった（正解率65.5%）のは、意外だった。経済学部の教員としては、講義の際に何気なく使う用語なので、気をつけないといけない。「出納長」（正解率72.5%）や「既成」（正解率75.4%）も、4人に1人は間違った。

漢字の書取り問題では、「異存」（正解率40.9%）や「異動（移動）」（正解率55.0%）、「栽培」（正解率62.6%）、「務」める（正解率66.1%）、あたりも正解率は70%を切っており、講義の際に使う用語としては十分に気をつけないと、言葉の意味が解らず、消化不良を起こしてしまう。

より深刻なのは、カタカナ言葉である。67.2%の正解率ということは、3割強の学生がわかっていない。カタカナ言葉の使用の際には、十分に説明をする必要があるということだ。Jターンはともかく、特に、ニッチ（産業）、コンベンション、コンプライアンス、アパレル（産業）といった、最近よく使われる用語ですら、半数程度の学生しかわかっていないのが実態だ。最近、講義を始めたら、眠りだしたり、隣と話を始めたりする学生が（ゼミナールにおいても）出てくるようになったのは、講義を聞く際の「礼儀」がなっていないというよりも、われわれが使う言葉の意味が解らないという事態の現れかもしれないのである。

全体としての評価は、現在の経済学部の教育の難易度から判断すると、中学生レベルの国語力に達しているかどうか疑問符のつく20点未満の31名は、正規の授業の外で国語力をつける努力をしないと中退する可能性が大。20～21点の25名は、卒業には相当な努力が必要。22～23点の38名は、卒業には平均以上の努力が必要。24～26点の61名は、平均的努力をすれば、卒業可能。27点（90%）以上の16名は、本学では成績優秀者に入るであろう、と思われる。ただし、最初にも書いたように、総数171名は相対的にまじめな学生なのであり、全員調査をしたら、できない学生の比率が高まると推測される。

3. 第2回目の調査

〔1〕調査の概要

第2回目の調査は「社会思想史B」で、9月18日昼間部第1回目の講義と9月25日夜間部の第2回目の講義で行った。受講者数はそれぞれ204名と65名であるが、調査に応じた学生数は2007年度入学生（以下、07と表記）79名、2006年度入学生（以下、06と表記）28名、2005年度以前の入学生（以下、05と表記）27名の、合計134名であった。前回と同じように、頭書に「この調査は、講義内容の改善を目的としています。各自の成績とは無関係ですが、まじめに答えを書いてください」と記入し、口頭で隣の人への解答を見ないように注意をして、約15分をかけて行った。講義の第1回目（昼）と第2回目（夜）の授業だったので、受講生の中では相対的にまじめな学生が出席していたと考えられる。したがって、前回同様この調査においても、相対的にまじめな学生の実態の一端が明らかになったと考えてよいであろう。なお、第2回目の設問内容は、すべて高校2年生レベルを想定して問題を作成した。

全部で30の設問、正解数・率は以下の通りである。

第I問 { } 内の漢字に読み仮名をつけなさい。

{解答数：05=27, 06=28, 07=79, 計134}

	05	06	07	計	(正解率%)
①{御利益：ごりやく} を求めて神社に参る。	18	25	54	97	(72.4)
②記名 {押印：おういん} を忘れないように。	8	14	33	55	(41.0)
③彼女は {香華：こうげ, こうばな} をたむけた。	1	0	4	5	(3.7)
④あの人は他人の高価な品を {拐帯：かいたい} する。	4	6	20	30	(22.4)
⑤十年に一人の {逸材：いつざい} といわれている。	23	26	77	126	(94.0)
⑥お宮で {神楽：かぐら} を見物する。	15	18	59	92	(68.7)
⑦{弾劾：だんがい} 状が読み上げられた。	11	12	53	76	(56.7)
⑧暗闇にぼつんと人家の {火影：ほかげ}。	17	18	58	93	(69.4)

- ⑨彼は {寡黙：かもく} である。 16 20 50 86 (64.2)
 ⑩静物画の {風韻：ふういん} を楽しむ。 20 22 58 100 (74.6)
 正解数(率)：05=133(49.3%), 06=161(57.5%), 07=466(59.0%), 計760/1,340(56.7%)

第II問 { } 内を漢字で書きなさい。

- | | 正解数 | 05 | 06 | 07 | 計 | (正解率%) |
|--------------------------------|-----|----|----|----|--------|--------|
| ①制服を {キュウヨ：給与} する。 | 16 | 17 | 44 | 77 | (57.5) | |
| ②噴火の {チョウコウ：兆候, 徴候} を示す。 | 4 | 10 | 28 | 42 | (31.3) | |
| ③喜楽を {キョウジュ：享受} する。 | 5 | 9 | 31 | 45 | (33.6) | |
| ④{タクバツ：卓抜} した技術である。 | 6 | 5 | 21 | 32 | (23.9) | |
| ⑤{コト：琴} の調べに耳を傾けた。 | 4 | 8 | 26 | 38 | (28.4) | |
| ⑥親の権威が {シツツイ：失墜} した。 | 1 | 6 | 25 | 32 | (23.9) | |
| ⑦自動車を買ったので {キョウセイ：強制} 保険に加入した。 | 18 | 17 | 45 | 80 | (59.7) | |
| ⑧賃上げ交渉が {ダケツ：妥結} した。 | 0 | 1 | 4 | 5 | (3.7) | |
| ⑨野犬の {ギセイ：擬声} 語を発し, 猫をだました。 | 3 | 2 | 17 | 22 | (16.4) | |
| ⑩隣でまた {チワ：痴話} 喧嘩がはじまった。 | 3 | 3 | 15 | 21 | (15.7) | |
- 正解数(率)：05=60(22.2%), 06=78(27.9%), 07=256(32.4%), 計394/1,340(29.4%)

第III問 次の四字熟語の正しい意味を示す番号を右から選び記入しなさい。

- a) 悪事千里 { } ①悪い行いは長く続く。②悪い評判はすぐ広く知れ渡る。
 ③悪事を重ねる。
- b) 暗中模索 { } ①ひそかに裏で策をねる。②手がかりなく探る。
 ③暗闇で探す。
- c) 意気衝天 { } ①意気込みが盛ん。②意気込みがぶつかる。
 ③意気込みがくじける。
- d) 寡聞少見 { } ①よく聞くが見ることは稀。②見聞が多い。
 ③見聞が稀で知識が少ない。
- e) 千載一遇 { } ①様々であること。②千回試みて成功する。

③滅多にない絶好のチャンス。

第III問 解答	正解数	05	06	07	計	(正解率%)
a) 悪事千里 {②}		18	23	60	101	(75.4)
b) 暗中模索 {②}		20	20	55	95	(70.9)
c) 意気衝天 {①}		10	11	34	55	(41.0)
d) 寡聞少見 {③}		9	11	33	53	(39.6)
e) 千載一遇 {③}		25	28	69	122	(91.0)

正解数(率) : 05=82(60.7%), 06=93 (66.4%), 07=251 (63.5%), 計426/670 (63.6%)

第IV問 次の四字熟語の正しい読みを記入し、その意味を書きなさい。

- f) 一言居士 {何か事ある毎に自分の意見を一言言わないと気のすまない人}
- g) 一朝一夕 {一日か一晚。転じて短い時}
- h) 破邪顕正 {不正を打破し、正義を表すこと}
- i) 小人閑居 {つまらぬ人は暇があると悪事に走りやすい}
- j) 面目躍如 {当人の名誉や評価に相応しい活躍をする様}

第IV問 解答*

	正解数	05	06	07	計	(正解率%)
f) 一言居士 {いちげんこじ}		1	0	2	3	(2.2)
g) 一朝一夕 {いっしょういっせき}		6	8	37	49	(36.6)
h) 破邪顕正 {はじゃけんしょう, けんせい}		12	10	30	52	(38.8)
i) 小人閑居 {しょうじんかんきょ}		0	1	5	6	(4.5)
j) 面目躍如 {めんもく(ぼく)やくじょ}		11	12	31	54	(40.3)

*「意味を記入」はほとんどできてないので、採点対象からはずし、「読み」のみで採点を行った。

正解数(率) : 05=30(22.2%), 06=31 (22.1%), 07=105 (26.6%), 計166/670 (24.8%)

総正解数・率

05=305/810(37.7%), 06=363/840(43.2%), 07=1078/2370 (45.5%)

計1746/4020 (43.4%)

第I問・第II問の正解数(率)合計

05=193(35.7%), 06=239(42.7%), 07=722(45.7%)

計1154/2680(43.1%)

個人別正解数の分布は以下の通りである。(総点30点満点)

得点	05(27名)	06(28名)	07(79名)	合計(134名)	(正解率%)
10点以下	13	9	23	45	(33.6)
11~14点	5	9	22	36	(26.9)
15点	5	2	7	14	(10.4)
16~19点	3	5	15	23	(17.2)
20点以上	1	3	12	16	(11.9)

注：最高点は25点。07入学の回答者数79名は、在學生約500名からすると微妙な数字であるが、サンプル数としては十分意義あるものと考えられる。同じく、06、05以前についてもサンプル数は少ないが、参考資料としては意義ある数字と考えてよいだろう。

〔2〕調査結果の分析

総正解率を見ると、05が37.7%、06が43.2%、07が45.5%、全体の正解率は43.4%である。学年で比較すると、問IIIを除き、07入学生が最もよくできていて、06、05の順番である。これはなぜか。決して学生の質が向上していると考えてはいけない。1年次に成績が今ひとつのために、あるいは同一群の別の科目を落としたため、2年次や3年次になって社会思想史を履修、ないし再履修しているものと考えられる。そうした学生は、概して成績が悪く、勉強もあまりしないため、こうした調査での出来がよくないことが考えられるのである。

個人別の集計をみると、15点以上、つまり50%以上の正解率を出した者は53名、全体の4割弱である。ということは、逆に、半分もできていない学生が6割強も存在する。この数字の大きさを、われわれは講義の際に、肝に銘じておかなければならない。20点(66.6%)以上の正解を出した者は16名、約12%であった。これは、われわれが講義・試験をしてみて、できる学生数・

率（SやAの評価を与える対象者）と実感する数字に近いのではないだろうか。約3分の1強を占める10点以下の学生45名は、講義を理解するのは難しいだろう。15点に満たない学生が81名、約6割なので、講義内容を相当易しくしないと、講義が成り立たなくなってしまうことが推測される。われわれは、実に厳しい状況に置かれているのだ。

次に個別にみてみよう。第I問「漢字の読み」では、香華（正解率3.7）、拐帯（同22.4）は極端に悪く、押印（同41.0）も5割をわった。「おいしい」と読む学生が多く、これでは就職した際に、恥をかくことになるだろう。学年ごとの正解率をみると、05では49.3%、06では57.5%、07では59.0%、全体では56.7%であった。05の学生では、正解率は5割を切っている。実に半数の学生が高校2年生レベルの漢字を半分も読めないのは、深刻な事態である。こうした学生が単位を取得するのに「苦勞」する姿が目につかぶ。だからこそ、彼らは1年次配当科目を3年次、4年次になっても受講しているのだ。

第II問「漢字の書込み」問題では、賃上げ交渉の{ダケツ：妥結⁵}が極端に悪く、わずか5名、3.7%の正解率であった。これは、労働組合の弱体化の現れかもしれない。「強制」保険と制服の「給与」を除き、正解率は軒並み50%を割った。「擬声」語や「痴話」喧嘩が10%台であるのはともかく、「卓抜」「失墜」「琴」の正解率が20%台、「兆候（徴候）」や「享受」も30%強の正解率というのには、問題を感じる。

第III問「四字熟語の意味」であるが、ややひねった問題の「寡聞少見」と「意気衝天」は、約40%の正解率であった。漢字をよく見れば、意味が類推されるところであるが、「寡」とか「衝」といった漢字はなじみがないらしい。

第IV問「四字熟語の読みと意味」であるが、「意味」の方は、ほとんどできてなかったのだから、採点対象からははずし、「読み」のみを取り上げた。「一言居士」（正解3人で2.2%）と「小人閑居」（正解6人で4.5%）はお手上げ状態。校歌に出てくる「破邪顕正」（正解率38.8%）はこのくらいかなと予想していたが、「一朝一夕」（正解率36.6%）と「面目躍如」（正解率40.3）は案外できていなかった。

4. 結びに代えて

以上、2回の調査結果について紹介したが、結論を再確認しておこう。全体として、第1回目の中学生レベル（第I問・第II問）の漢字力調査では、正解率は約80%であった。ということは、約20%、5人に1人の学生が中学2年レベルに達していない。彼らは、何らかの対策を講じない限り、講義を理解することが相当に難しく、したがって単位取得も極めて難しい。その多くが中退していく可能性が極めて高いと考えられる。

他方で、5人のうち4人は、一応、中学生レベルに達しているといえるが、高校生レベルのカタカナ言葉の常識問題を入れると、正解率は約75%に下がる。つまり、甘く見ても、4人に1人は大学の講義を受ける際の、基礎的な国語力に疑問符が付く。さらに付言しておけば、調査対象となった学生は「相対的にまじめな学生」たちであり、全数調査をすれば、数値は下がるであろうと考えられる。

第2回目の高校生レベルの漢字の読み・書き問題では、正解率はそれぞれ、約57%と29%であり、I・II問を合わせると、全体での正解率は約43%であった。これは、第1回目と比較して、ほぼ半分の正解率であり、約6割の学生について、大学の講義を受けるだけの基礎的な国語力を身に付けているかどうか、疑問符が付く。最初に紹介した「大学進学者の5人に1人は家でほとんど勉強せず、2人に1人は勉強時間が2時間以下」というのは、あくまで平均的な数字である。経済学部では、半数を、事実上、筆記試験のない「推薦入試」で合格させており、これからすると6割というのは、不本意ながら納得せざるをえない数値である。

では、残りの4割強は大丈夫なのか。四字熟語を含めた総点30点のうち、15点（50%）以上の正解を出した学生数39.6%と、この数字がほぼ符合する。つまり、相対的に優秀な上位4割強の学生ですら、大学レベルの授業を理解するための国語力としては50%程度しか身に付けていないのである。かりに、設問が難しすぎるとしても、相当厳しい数値として受け止める必要があるだろう。⁶

加えて、上で引用したように、学内・外を合わせた大学生の平均的な勉強

時間は1日3時間で、大半の学生は学外ではほとんど勉強しない。このような学生を相手に「教育」しなければならないのである。いま、適切なレベルできちんと教育していく体制作りをしなければ、本学の「卒業証書は何の意味もない」と言われる時代が、やがてやってくるかもしれない。

さて、本調査は経済学部を学生を対象としたものであるが、私見では、他学部生の学力についても五十歩百歩である。だからこそ、われわれは、学生のレベルに合わせて、本学の教育を見直さなければならない。本学は、筆記試験を課さない推薦入試やAO入試で5割以上の入学者を、残りは筆記試験を行う一般入試で受け入れてきたのだから、もともと入学も「かなり易しい」大学であったことは周知のところである。その受験者数が年々減少してきて、今では不本意ながら、全入も視野に入ってきた段階にある。このような学生の質と量を前提とすれば、個別学部のレベルではなく、大学全体として、エリート養成的なイメージの、自分たちの「高度な」研究を踏まえて「高度な」専門知識を伝授するといったタイプの大学では、もはや通用しないことを認めなければならない。

改めて、われわれが目の前にしている学生像を明確にしてみよう。多くの学生の入学時の学力レベルは高くない。過半数の学生について、大学の授業を受けるための基礎的な学力に疑問符が付く。高校生レベルの知識・学力が備わっていない学生が多いのである。また、本学の学生に限らず、多数の学生は自分の卒業後の将来設計ができていない。つまり、卒業後の針路が明確ではない。(この点は、学生個人の責任というよりも、世の中の動きが激しく、先のことが見通せないという時代の問題の方が大きいかもしれない。)何をしたいかが明確でないから、勉学意欲もさほどない。さらには、年齢相応のモラルが身につけてなく、精神的な成長が不十分な学生が多くみられる。こうした学生を「ナイナイ学生」と呼ぼう。

このような「ナイナイ学生」に対して、私学だからといって、大教室で大人数を相手に、マイクを使って教壇から話をする旧来の「教育方法」では、実質上、効果が上がらないことは、学生・教職員の誰でもわかっていることである。学生によるアンケート調査でも、大教室の講義ほど、学生の評判は悪い。どんなに面白そうな科目名を付けても、また、どんなに熱心に取り組

んでも、教員が喋る言葉の意味が解らなければ、講義内容は理解できず、当然のように睡魔が襲うし、隣とお喋りをしてしまう。学力や意欲の低下に気が付いておきながらも、これまでは、講義が理解できない責任は、きちんと勉強をしない学生にあるとみなし、事実上放置してきたとは言えないか。

われわれに求められているのは、われわれ自身が抱えてきた「勉強をする基礎が身につけている学生」がもはや少数であり、多数の「ナイナイ学生」を相手に教育をしないといけないという認識を持つことではないか。この認識を出発点に据えるなら、個別学部のレベルのみならず、大学全体として、エリート養成的なイメージの、自分たちの「高度な」研究を踏まえて「高度な」専門知識を伝授するといった、旧来のタイプの大学像の転換を図る必要性も認識されるに違いない。

しかも、外部の圧力も増してきた。少子化と規制緩和による大学数の増加で、大学への志願者数と大学の定員が等しくなる「大学全入時代」⁷が目前に迫っていて、受験による「入り口での資質保証」がもはや期待できない状況にあることを受け、中央教育審議会小委員会は、大学卒業を厳格にするよう提言した。卒業までに学生が身につけるべき「学士力」⁸という概念を使い、学習成果の到達を証明する機会としての「認定試験」の導入や、講義ごとの到達目標、成績評価の基準の明確化、到達率を測定・把握する仕組みの整備を提言したのである。こうした事柄が、今後、どの程度具体化されるかはわからないが、教育内容・単位認定基準の見直しは避けられなくなってきた。

では、「ナイナイ学生」に対し、4年間で「学士力」を身に付ける教育とはどのようなものであろうか。入学時の基礎学力に疑問符が付き、将来がよく見えず、ヤル気も乏しく、モラルも希薄な学生。こうした学生が大勢いることを前提とした教育を考えるならば、人文科学、社会科学、自然科学を幅広く学びながら、学生一人一人のバランスのとれた人格の形成を目指す、全人教育は欠かせない。より具体的に言えば、各教員が一人一人の学生と密に接しつつ、担当教員の専門的知識を活かしながら、基礎学力を身に付けさせる教育である。別の表現をすれば、それは教養的な広がりを持って専門的知識を教え、人間形成を目指すことを意味する。より高度な研究を続けたい学生には、大学院で学ぶことを進めたらよい。学部での教育の目標は、人格の陶

治を含む学士力の養成である。それは、昔の教養教育ではない。文理の違いを超えた、文理協働という時代の要請に合致するものとしての、それである。こうした教育が本学の建学の理念・理想と重なることは、言を俟たない。⁹

- 注1 岡部恒治，戸瀬信之，西村和雄編著『分数ができない大学生—21世紀の日本が危ない』東洋経済新報社刊，1999年。学力低下問題は，その後，格差問題と繋げて論じられるようになった。格差と教育に関する文献は相当数に上る。内田樹『下流志向』講談社，2007年。福地誠『教育格差絶望社会』洋泉社，2006年。和田秀樹『教育格差——親の意識が子供の命運を決める』PHP 研究所，2006年。山田昌弘『希望格差社会』筑摩書房，2007年。橘木俊詔『格差社会』岩波書店，2006年。など
- 注2 筑波大学の石塚修氏による調査の結果は「新聞を活用した大学生に対する「国語」教育の試行的実践研究」としてまとめられている。ちなみに正答率が20%以下の読みの5つとは、「耗弱，進捗，陋習，忖度，求道者」であった。
- 注3 この記事には産経新聞による改ざん疑惑が指摘されている。次のホームページを参照。<http://oak.zero.ad.jp/bee/sansuu/okasii/okasii.html> 真偽のほどは不明だが，この記事が大学生の学力低下問題に一石を投じたことは否定できない。
- 注4 2007年9月24日付，全国各紙の報道記事
- 注5 「妥決」と書いている学生が数名いたので，インターネットで（2007年10月1日現在）調べてみたら，「FTA 妥決」や「賃金妥決」の文字が出てきた。よく見ると，それは韓国の聯合ニュースの記事であった。おそらく，この記事を書いた記者が「妥結」を「妥決」と表記したのであろう。インターネットの普及でこうした事態の発生は，珍しくなくなっているのだろう。それだけに，正しい表記を教えていく必要がある。
- 注6 建前としては，大学教育を受ける学力があるものと認定して受入れるのだが，現実には青田買い状態なので，その学力が担保されているとは言い難いケースも多い。私見では，中学校での学力の遅れを高校時代にとりもどすことなく，また，高卒の学力レベルに未達のまま，高卒として入学してくるケースが目立つ。
- 注7 2007年の大学・短期大学の志願者数は，合計77万2千人ほどで，入学者は69万8千人あまり。志願者の95%が入学している。他方で，定員割れを引き起こした私立の一般大学が40%に上る。文科省が国公私立の全717大学を対象に行った調査によると，今春の入学者総数は，昨春より約1万8百人多い約60万4千7百人。うち，私立大の入学者は約45万6千8百人。入試別に分けると，一般入試で入学した人は49.6%にあたる約23万6千6百人，推薦入試は約19万8千1百人（41.6%），AO入試は約3万9千2百人（8.2%）だった。（2007年9月26日付『読売新聞』より）
- 注8 ちなみに，学生に必要な「学士力」とは，(1)専門分野の基本知識を身につけ，歴

史や社会と関連付けて理解する「知識・理解」、(2)日本語と外国語を使って読み・書き・聞き・話しができるなど、社会人生活に必要な「汎用的技能」、(3)協調性や倫理観などの「態度・志向性」、(4)これらを活用して課題を解決する「創造的思考力」の四分野である。

さらに、入学時の初年次教育の充実化や、「文章表現」「プレゼンテーション」「図書館の利用法」といった入門型教育や、高校レベルの復習をする補習授業の充実を要請している。ただし、それらは大学教育の予備であり、単位の認定はしないように、と付言している。

注9 2005年の中教審のいわゆる「将来像答申」では、高等教育に関する7つの機能(①世界的研究・教育の拠点、②高度専門職業人の養成、③幅広い職業人養成、④総合的教養教育、⑤特定の専門的分野(芸術、体育等)の教育・研究、⑥地域の生涯学習機会の拠点、⑦社会貢献機能等。)を提示し、各大学が1つ以上を選択するという「機能の多様化と個性の明確化」を求めた。その時点で、本学が目指す方向を明示すべきであった。本学の水準では、「世界的な研究・教育の拠点」や「高度専門職業人の養成」を看板にはできないのだから、「総合的教養教育」を柱に、その他の要素を組み合わせ九産大の未来像を明確に提出しなければならない時期にきている。これは、筆者一人の認識ではないだろう。一部では「幅広い職業人」または「高度専門職業人」を育成する大学を志向しているということを行う人がいるが、「幅広い職業人」志向は、入学時の学生の学力レベルが偏差値50を超えている大学で柱に想定されるものであろう。偏差値が50を切る大学では、「学力」のみならず、「目標」「意欲」「モラル」などに関しても問題を抱えることになる。だから、全人教育が必要となる。また、「高度専門職業人」であるが、特に文系においては、ロー・スクール、ビジネス・スクールがないという、大学院の現状を踏まえれば、望み得ない道である。多数の学部と人材を抱えた本学には、むしろ多様な専門科目を学びながら4年間「総合的教養教育(全人教育)」を行う道の方が、より適合的であると思われる。